

キャッチボールをしよう!

ドッジボールという遊びがありますね。中高生ともなれば、もはや遊びというよりは競技と言ったほうがふさわしいスピードと激しさです。ボールを相手方にぶつけ合う。厳しく投げられた激しいボールを巧みにかわす。ひっしと受けとめる。とてもエキサイティングです。

それと対照的なのがキャッチボール。ドッジdodgeとは「さっと身をかわす」「すばやく避ける」という意味、キャッチcatchは、「動いているもの・ボールなどをつかむ、受けとめる」という意味。ボールを受けとめる。相手のかまえる胸元のグラブに、受け止めやすいように投げる。球がそれでもグラブを伸ばし、ボールを受け取ろうとする。はじけば拾いに走って、相手のかまえたグラブめがけて投げ返す。そこにはエキサイトはないかもしれない。でも、グラブに入るボールの音を心地よく感じ、時に捕らえづらい球も拾って互いの気持ちを感じ合う。気持ちも身体もほっこりと温かくなる。ドッジボールは楽しい。でも、私は思います。あなたとキャッチボールがしたいと。想えば、キャッチボールが私たちを成長させてくれたのです。私を育み、私に言葉の世界を開いてくれた。言葉のない私に、優しくかけられ続けた言葉があった。それはどこか懐かしい響きをもっていた。まだ言葉のない私は、しっかりとすべてを聞き取ろう、受け取ろうとした。たとえ私が受け取り損ねても、決してとがめることなく、もう一度やわらかく言葉は差し出された。今度はしっかりと受けとめられるように、と。幾度も、幾度も。そうして私たちは、今の私になった。今の私はそのような歴史を持っている。歴史が願い、そして私のいのち自身が願い、身に獲得させてくれた尊い事実なのです。そこにはいつもキャッチボールをしようとする私がいた。そして私とキャッチボールしようとする、私への慈しみに満ちた世界があった。それほどの慈愛によって、この私となっている。誰もが。

大谷で、たくさんキャッチボールをしよう。



飯山
等
学校長